

# 大田市久手地区・三隅地区種苗放流効果調査

竹内四郎・勢村 均

## <大田市久手地区>

1. 調査期日：昭和57年11月5日

### 2. 調査方法

水試鹿島分場より2名（竹内・勢村）沿整協会2名（郷原・飯島）で現場に行き、組合で地元漁業者代表から近況を聴取するとともに伝馬船2隻に分乗して放流現場に赴き、スキューバ潜水により効果調査を実施した。

### 3. 調査結果

当日は、雨天で、風向NE、風力1、波浪1、ウネリ1であった。

現場は久手港から近く、53年度にN型ブロック140ヶを投入したところであるが、ブロック及び附近（水深5m内外）の石

にアカモク、イソモク、ノコギリモクが着生しているが、 $m^2$ 当り1,000g以下で何れも少なく、底質はごろ石状で、小型サザエ、バテイラ、クボガイ等の着生は比較的多かった。20分間の潜水でアワビ5ヶを採捕したが、放流3ヶに対し天然2ヶの割合であった。海藻の

着生は全般に少なく、場所による差が大きい。

No.1, No.2は放流後1年位, No.3は放流後3年位経過しているものと推定される。将来、有用藻類の移殖等について考慮すべきものと思われる。

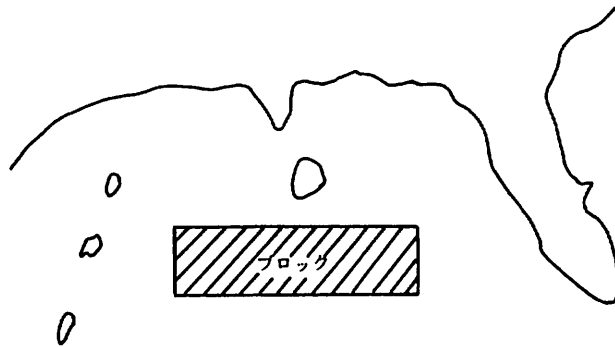


図1 調査地点要図

表1 アワビ測定表(クロ)

No.	殻長	放流時殻長	重量	成長	種別
1	4.6cm	2.5cm	10g	2.1cm	放流
2	5.5	2.0	20	3.5	〃
3	10.0	2.0	115	8.0	〃
4	6.0		20		天然
5	12.3		230		〃

<三隅地区>

1. 概況

57年9月3日、鹿島分場から2名（竹内・勢村）県沿整協会より2名（岸・飯島）現地に行き、地元漁業者から概況について聴取したが、カナギ漁に従事する人は8隻（12～13人）アワビ、サザエ、ワカメが主体で、ウニは他地区より採りに来る。ブロック投入地附近にはマダコは少ないがミズダコが多い。

又、放流については49年頃から実施しているということであった。アワビの価格は、2,800～4,200円/kgで、サザエ網の使用は禁止しているということである。

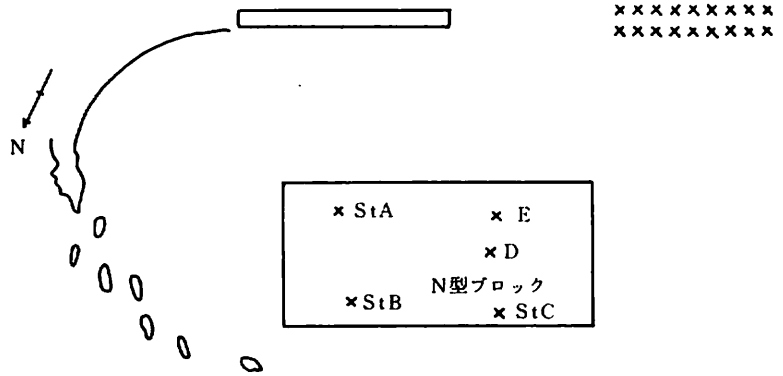


図2 調査地点要図

2. 調査方法及び経過

伝馬船に便乗してブロック投入地へ行き、スキューバ潜水によって、50cm枠内の枠取り調査により資料を採集し、分場へ持ち帰って査定等を行なった。

表2 アワビ測定表

No.	殻長	放流時殻長	成長度	重量	種別	天然放流
1	11.5cm			135g	メガイ	天然
2	12.0			140	〃	〃
3	13.0			240	〃	〃
4	14.0			270	〃	〃
5	14.0			250	〃	〃
6	10.0			110	〃	〃
7	11.0			130	〃	〃
8	13.5	2.8cm	10.7cm	275	クロ	放流
9	13.0	2.5	10.5	280	〃	〃
10	13.0	2.3	10.7	240	〃	〃
11	12.0			220	〃	天然
12	10.0			100	〃	〃

表3 坪刈り表

Station Species		A	B	C	D	E
藻	ノコギリモク	80 g	10 g		40 g	
	ヤツマタモク	340			400	
	ホンダワラ	80	60	440 g	10	40 g
	アカモク	480	450			840
	オオバモク				100	
類	クロメ	10		240	1,420	
	イギス	5				
	マクサ					10
貝	バテイラ			1ケ		
	イボニシ			1		
	レイシ			1		
類	クボガイ					1ケ

当日の天候は晴時々曇で風向NE, 風力2, 波浪2, ウネリ1といった状況であった。

附近のブロック及びごろ石にはノコギリモク, クロメ等が着生し, 特に70~90cm大の石にはモク類の着生が多く, ベラ, アジ, クロヤ, カワハギ等が群泳していた。

クロの内3ケは放流ものが確認され, 2ケは天然であった。成長度, 殻長等から放流後4~5年経過したものと推定される。

5ケ所の坪刈りによると,  $m^2$ 当り着生量は2,080~7,640gと他地区に比べ, やや多い着生量を示しており, 特にクロメが多いことはアワビ, サザエの棲息条件としては好適地となっている。

## 考 察

- 1) 久手地区のブロック投入場所は, 海藻の着生がやや少ない様に思われるので(附近の天然礁も含めて)クロメ等の移殖について考慮すべきと思われる。
- 2) 三隅地区は餌料海藻の種類, 量共にかなり豊富であるので, 主として放流後の管理(食害生物の駆除……タコ, ヒトデ)について留意すべきと思われる。
- 3) 両地区共に放流数が未だ低いため種苗放流の効果については, はっきりとしたことが判らないが, 試験採捕では何れも60%の混獲率(放流種苗)を示しており, かなり高い数値となっている。